

医師及びメディカルスタッフのための

# 第34回糖尿病セミナー 「糖尿病の新たな合併症」

日時 2018年2月11日(日・祝) 13:00~16:45(受付開始12:00~)

会場 新都市ホール・そごう9階 (定員:900名)

共催 神奈川県保険医協会/ノボ ノルディスクファーマ株式会社

## プログラム

特別報告 テーマ:『神奈川県における糖尿病対策~神奈川県糖尿病対策推進プログラム~』

演者: 神奈川県 保健福祉局 保健医療部 医療保険課長 田熊 徹氏

特別講演1 テーマ:『糖尿病と歯周病の深い関係 -医科歯科連携の重要性-』

演者: 慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 教授・診療部長 中川 種昭先生

特別講演2 テーマ:『糖尿病と癌』

演者: 聖路加国際病院 内分泌代謝科 部長 能登 洋先生

レクチャー① テーマ:『自己血糖測定の上手な使い方』

演者: H.E.Cサイエンスクリニック 副院長/糖尿病肥満治療研究所 所長 調 進一郎

レクチャー② テーマ:『注射製剤・インスリンとGLP-1について』

演者: 医療法人社団 武田クリニック 院長 武田 浩

## 申込方法

**参加費** 事前振込 3,000円(当日支払い4,000円) ※お振込後の返金は出来ません。

★必ず事前にFAX等でお申し込み下さい。その後、下記口座へ1/30(火)までに参加費をお振込みください。  
(お振込みが期日までに間に合わない場合は、事務局へお問合せ下さい)また、その際、通信欄に「参加者氏名(複数の場合は全員分)」と「糖尿病セミナーの参加費」である旨をご記入ください。資料は当日お渡します。

**振込先** 郵便局口座名:神奈川県保険医協会 口座番号: 00260-2-2220

**問合せ** 神奈川県保険医協会 担当: 大井、渡辺、園田 電話 045-313-2111 / FAX 045-313-2113

~セミナーにお申し込みをされた方へ~

※お申し込みが受け付けられた旨の連絡はしておりません。(別段連絡が無い限り受け付けられております)

※会場は座席により空調の利きに偏りがあります。必要な方は上着、ひざかけ 等ご用意ください。

## 【取得単位】

- ・ 神奈川糖尿病療養指導士認定のための研修会 (5単位)
- ・ 日本糖尿病療養指導士認定・更新のための研修会 (第2群1単位) 申請予定
- ・ 日本糖尿病協会 療養指導医 (歯科医師登録医) 取得のための講習会
- ・ 日医生涯教育認定講座 CC 申請予定
- ・ 日本歯科医師会生涯研修事業認定研修会 (3単位) 申請予定

※原則、遅刻・早退された場合は、単位取得のための参加証配布は致しかねますので、ご了承ください。

## 第34回糖尿病セミナー 参加申込書 <<FAX 045-313-2113>>

代表者に○	フリガナ	参加者氏名	職種

代表者連絡先ご住所  
どちらかに○のチェック  
(自宅 又は 施設) 〒

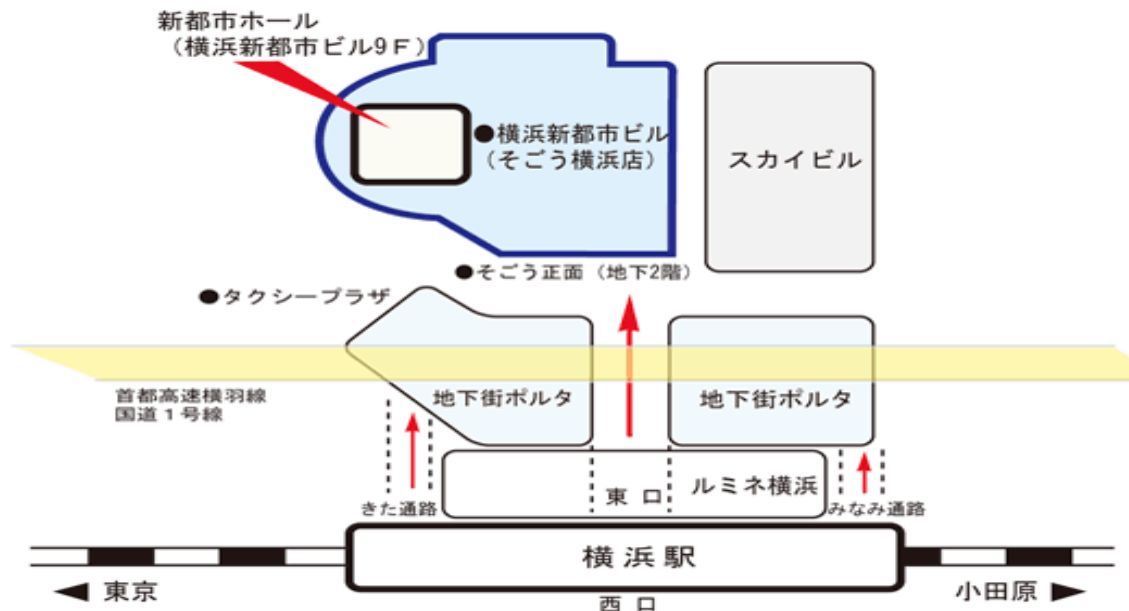
ご連絡先 ⅴ

ご連絡先 FAX

施設名 (自宅 又は 施設) ( ) (自宅 又は 施設) ( )

★複数お申し込みの場合は、全員のお名前・フリガナ・ご職業をご記入下さい。■お申込み後、参加費をお振込み下さい。

## 【新都市ホール会場図】



### 【講演要旨】

※当日多少の内容変更もあります。あらかじめご了承下さい。

#### ■ 神奈川県 保健福祉局 保健医療部 医療保険課長 田熊 徹氏 ■

神奈川県では、県医師会、県糖尿病対策推進会議とプログラムを協働で策定し、市町村（国民健康保険）等による「医療機関への受診勧奨」や「かかりつけ医と連携した保健指導」等の取組みを推進しています。

#### ■ 慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 教授・診療部長 中川 種昭先生 ■

歯周病は、歯周組織に病原細菌の量的増加、質的变化が生じ、組織破壊が生じる疾患と考えられます。糖尿病患者は歯周病を発症しやすく重篤であること、血糖コントロールの良否が歯周病の進行に重要であること、歯周病治療により糖尿病が改善する可能性のあることが示されています。今回は、糖尿病と歯周病を中心に口腔と全身疾患とのかかわりについてお話をさせて頂く予定です。

#### ■ 聖路加国際病院 内分泌代謝科 部長 能登 洋先生 ■

近年、日本人では糖尿病は癌全般、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌のリスク増加と関連があることが判明しました。この講演では現状の分析だけでなく、癌対策についても解説します。

#### ■ H.E.C サイエンスクリニック 副院長／糖尿病肥満治療研究所 所長 調 進一郎 ■

様々な自己血糖測定 (SMBG) 器が開発されています。患者さんにはどう指導し、結果をどう読み込むか、保険請求時の注意点などを解説します。また、昨年9月から保険適用になった連続グルコースモニタリングシステム「FreeStyle リブレ」の特徴などをお話しします。

#### ■ 医療法人社団 武田クリニック 院長 武田 浩 ■

注射製剤には、インスリン製剤とGLP-1受容体作動薬があり前者は血糖を下げるインスリンホルモンそのものを補充するのに対し、後者は膵臓からインスリンを出しやすくする作用があります。それぞれの種類の注射薬について勉強します。